

荷風全集

第二十六卷

岩波書店

昭和四十年一月二十六日 印刷

昭和四十年一月三十日 發行

荷風全集第二十六卷

定價六百圓

著 者 永 井 壯 吉

發 行 者 岩 波 雄 二 郎

發 行 所

東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地
株式會社 岩 波 書 店

目 次

王昭君其他	三
王昭君	五
おくり船	一三
つくりばなし	二九
糸のもつれ	四一
四疊半襖の下張	五七
雑草園 其三	六五
新年の雑誌界 其他	七〇
洒汀作の「失戀」上	六六
新年の雑誌界	六九
湖山君の「大學攻撃」を読む	七五

二月の文壇……………	七
日本人の作は素人臭い……………	八
フランス物語の發賣禁止……………	八七
藝術品と藝術家の任務……………	九二
藝術は智識の樹に咲く花也……………	九五
作品の性質に依り何れにても可也……………	九六
批評について……………	一〇〇
小説と口繪……………	一〇三
正宗白鳥君……………	一〇四
文學雜感……………	一〇六
文章の調子と色……………	一〇八
太陽第三回懸賞募集小説選評……………	一一五
文藝讀むがまゝ……………	一二九
久米秀治氏の「その話」……………	一四三
増田康吉君新作「驚き」を讀む……………	一四七

目次

上田博士三周忌	一五〇
現代文學全集につきて	一五三
沼波瓊音氏	一五八
上田敏先生	一六〇
小波先生と少年文學	一六三
近代佛蘭西作家一覽	一六四
拍子木物語 其他	一六七
拍子木物語	一六八
歌舞伎座の春狂言	一六九
琴古流の尺八	一六九
樂屋十二時	一七〇
芝居の囃子	一七四
劇界と劇評家	一七三
音樂雜談	一七六
自分の見たるロダンの作品	一七三

演藝の趣味	二三
帝國劇場開場式合評	三八
帝國劇場批評	四七
佛蘭西の女優	五〇
三人吉三廓初買につきて	五四
新書漫評	五九
繁太夫節拜聴仕候	六三
左團次上演用脚本選後感	六三
申　　譯	六七
今様薩摩歌を観る	六九
市川左團次	七三
帝劇の「旅姿思掛稻」	七六
謎帶一寸徳兵衛を観る	七九
岡鬼太郎君作昔摸鼠小紋	八〇
梅曆について	八六

目次

市川左團次追憶座談會	二六八
斷章	二九三
上海紀行 其他	二九五
上海紀行	二九六
涙	三〇四
逗子より	三〇五
讀書は惡行なり、多く語つて少く讀め！	三〇六
俳優を愛したる乙女に	三〇八
死後の生活	三一一
歸郷雜感	三二四
雅號について	三三一
歐米の生活と日本の生活	三三三
東洋的風土の特色	三三七
予と宗教信仰	三三〇
淺草趣味	三三三

少年時代愛讀の雜誌	三三四
「味」は調和	三三六
乗合船	三四〇
雅號の由來	三四二
客子暴言	三四三
古本評判記	三四九
花月編輯雜記	三五四
獨居雜感	三五八
亞米利加の思ひ出	三六五
秋草	三七二
東京風俗ばなし	三七五
アンケート	三九一
新年物と文士	三九二
注目すべき本年の作品	三九二
文士と酒、煙草	三九三

目次

文士と芝居	三九三
文士とすし、汁粉	三九四
小説の地の文の語尾	三九四
文士と八月	三九五
七月十二日の記	三九五
簡易銷夏法	三九六
趣味と好尙	三九八
夏の生活	三九九
浴衣姿の美人に對して	四〇〇
若氣の過ちとも申す可くや	四〇一
余が最も好む土地と花と人と	四〇一
夏の旅行地の感想	四〇二
私の好きな夏の料理	四〇三
私の好きな夏の女姿	四〇三
文部省の所管とせよ	四〇四

余の文章が始めて活字となりし時	四〇五
興も覺えず	四〇五
私が女に生れたら？ どう男を遇するか？！	四〇六
もし私に子があつたら	四〇七
快活なる運河の都とせよ	四〇八
挿畫類題言	四一一
斷片	四一五
序跋其他	四三三
喜怒多集序	四三四
久保田万太郎著小説淺草の跋	四三五
ルバイヤット序	四三八
江戸庵句集序	四三九
淺草川船遊之記前書	四四五
山下八景前書	四四六
鳩鳥柳花鈔叙	四四七

目次

東京風景版畫集叙	四四八
雜誌花月發行之辭	四五一
詩集昨日の花のはじめに	四五三
堀口大學著月光とピエロ叙	四五五
谷中大圓寺笠森阿仙碑文	四五七
谷崎潤一郎著近代情癡集叙	四五八
黑田湖山著小説滑稽の叙	四六〇
浮世繪保存刊行會趣意書	四六二
山内秋生著春の別離の叙	四六四
岡鬼太郎著世話狂言集の序	四六五
風流御小道具所開店披露の口上	四六六
堀口大學著青春の焰の叙	四六七
山彥榮子墓誌	四六九
歌舞伎座俳諧雜誌はしかき	四七〇
巖谷三一編述綴合龜山綺題言	四七二

市川左團次所藏蜀山人畫像函題	四七五
三世河竹新七脚本全集廣告文	四七六
大衆文學全集松本泰集序	四七七
文學博士上田敏著述全集廣告文	四七九
市川松蔭養子襲名披露の文	四八二
雜誌赤本屋第一號題言	四八四
樂天居小波先生還曆賀詞俳句集序	四八五
邦枝完二作小説おせん序	四八六
川尻清潭著名優藝談序	四八八
日高基裕著釣する心序	四九〇
種くばり識語	四九一
大島隆一著柳北談叢序	四九三
屠龍の技跋	四九三
木村富子著淺草富士序	四九四
金秉旭著詩集馬の序	四九六

目 次

南畝先生手蹟帖に題す	四九七
花柳章太郎著きもの簪序	四九八
思想才藝まさに圓熟	四九九
縮刷小本牡丹の客はしがき	五〇一
荷風傑作鈔跋	五〇二
モオバツサン序	五〇三
荷風筆書畫帖跋	五〇四
麻田駒之助氏藏畫軸函題	五〇五
夏すがた題言	五〇六
荷風文彙はしがき	五〇七
重印荷風全集叙	五〇八
永井荷風先生略傳	五〇九
やどり蟹はしがき	五一二
現代日本文學全集永井荷風集序	五一三

つゆのあとさき序	五二四
狐につきて	五二六
墨の糟序	五二七
改訂下谷叢話序	五二八
夢の女題言	五二九
澤東綺譚題言	五三〇
珊瑚集識語	五三二
杏花餘香はしがき	五三三
來訪者序	五三三
鎌倉文庫版澤東綺譚序	五三五
日誌につきて	五三六
罹災日録序	五三八
荷風日歴序	五三九
日かげの花序	五三〇
浮沈序	五三二

目次

木板摺かたおもひ序	五三二
雜草園序	五三三
葛飾土産序	五三四
腕くらべ重刊の序	五三五
八木書店版澤東綺譚序	五三六
澤東綺譚識語	五三七
東都書房版日和下駄序	五三八
江戸庵句集序 異文	五三九
後記	五四七

雜
纂
一